

市長記者会見記録

日時：2023年3月10日（金）14時00分～14時16分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入りますが、進行は幹事社の方によりしく願います。

<市政一般>

<マスク着用の考え方について>

【朝日（幹事社）】 よろしく願います。朝日新聞でございます。13日にマスク着用が御自身の判断でということになりますが、市長個人はマスク着用をどういうふうにされて、また、川崎市役所として、組織として何か御指示はされたのでしょうか。

【市長】 私個人としては、もう必要ではないところには積極的に外していこうと思っています。場所ですとか、したほうがいいなという、場合によって着脱していく、判断していくということになります。でも、私、花粉症なものですから、そういう意味ではまだつけることも多いのかなと個人的には思っています。

それから、各職場での対応ということは、ベースは個々人の判断になりますけれども、結構様々です。区役所の窓口業務をやっているところですか、あるいは市営バスの運転手さんとかは引き続きつけるということですか、病院なんかでもそうでありますけれども、それぞれの場面において必要などころではつけるということは引き続きやっていくところもありますが、一律にみんな外そうということではありません。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

<東日本大震災について>

【時事（幹事社）】 時事通信と申します。よろしく願います。3・11が近いので、その関係で一つ願います。2011年から間もなく12年となります。この間、デジタル技術が発展して、市民への情報伝達とか情報収集の面ではかなり技術も変わってきたのかなと思うんですけれども、今後、大規模地震が発生した場合に、現状、市民の命を守る上で課題だと考えられていることがありましたら願います。

【市長】 いかに正しい情報をいち早く市民の皆様に伝えていくということが課題かと思っています。そういった意味ではこれまでも、例えば防災アプリですとかメール配信ですとかツイッターだとか、ああいうSNSというのも使って情報発信に努めてきましたけれども、今後もデジタル技術というものをうまく活用しながら、正しい情報を正確に、いわゆるデマ情報なんかには惑わされないような、市民の皆さんへのリテラシーというか、そういったことも含めて、今後も取り組んでいかなくちゃいけないなどは思っております。

【時事（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 では、各社お願いします。

《川崎臨海部が液化水素の受入地に選定されたことについて》

【NHK】 NHKです。昨日、市からも会見がありましたけれども、川崎の臨海部が液化水素のサプライチェーンの商用化実証の受入地に選定されました。これについて市長のコメントをお願いします。

【市長】 本市としては、全国に先駆けて水素戦略というものを策定して、官民上げて水素の利活用に向けてという取組を進めてまいりましたので、そういった意味で、大規模な液化水素の受入地というのが川崎臨海部に決まったということは大変歓迎しておりますし、まさに脱炭素社会を川崎から進めていくことができるということに非常に大きな期待をしているところであります。

【NHK】 また、これ、川崎だけじゃなくて、いろんなところへの波及効果もあると思うんですけれども、その辺りはどのように受け止められていますか。

【市長】 基本的には、受入れと、それから、需要家の人たちをこれから掘り起こして、そこをどうつないでいくかということが非常に重要になってくると思います。そういった意味では、去年は横浜との協定も結びましたし、先月は東京都にも行ってまいりましたしという形で、首都圏全体に大きな波及効果が出てくると思います。特に川崎は、1都7県のエネルギー供給を、家庭用電力を賄うだけの大変多くのエネルギーを供給している基地でもありますので、それが化石燃料から水素などに変わっていくということは、日本の脱炭素というものに、カーボンニュートラルに大きな貢献ができるのではないかと考えていますので、そういった意味では、川崎というところが受入地という形にはなりますけれども、利活用という意味では、かなり広範囲な首都圏全体の取組にしていかなければならないという、ある意味、そういう使命もあるのかなと思っています。

《「新たなミュージアムに関する基本構想（案）」について》

【NHK】 もう1点。今日午前中の文教委員会で、市民ミュージアムの建設候補地が発表されたと思うんですけども、具体的に地域が指定されて、これからいよいよ再建に向かっていくと思うんですけども、改めてこれについてどう捉えられているか、お願いします。

【市長】 新たな市民ミュージアムの候補地が生田緑地ということにいたしましたけれども、単に被災を受けた市民ミュージアムを元に戻すという形ではなくて、新たなミュージアムにふさわしいものを造っていかなければならないとは思っています。そういった意味では、本物に触れるとか見れるという意味でのセンター的な機能を持った市民ミュージアムと、それから、まちの中にアウトリーチしていくような活動を大変重要視しておりまして、そういった意味では、まちなかミュージアムと仮称で言っておりますけれども、そういった連携をすることによって、市民に親しまれるものにしていきたいと思っています。

この生田緑地というのは、文化芸術施設が今でも集積しているところですので、そこに市民ミュージアムを持っていくということについては、首都圏有数の文化芸術エリアが形成できると思っていますし、民間で開発計画も進んでいますので、その相乗効果も出るのではないかと期待しています。

【NHK】 ありがとうございます。

【神奈川】 神奈川新聞です。市民ミュージアムの件なんですけれども、多摩区の生田緑地にできるということで、アクセスに関しては多少不便なところもあるのかなと思うんですけども、さらには南部の人からすると、やはりちょっと時間がかかるということもあると思います。そちらに決まった根拠ですとか、交通の便のあまりよくない点に関してどのように考えていらっしゃいますか。

【市長】 様々な候補地というものを探しました。市有地、民有地含めて、市内どこが大丈夫かなということ。まず1つは、今回浸水したということもありますので、浸水しないところが最低条件としてありましたのと、色々検討した結果、ここが一番いいだろうという形に生田緑地の中に決まりましたけれども、交通アクセスの面については、公共交通機関をうまく利用していただくことにこれからもなっていくと思っておりますけれども、それについては便を増やすだとか、いろんな新しいモビリティも今は研究されておりますので、実際にミュージアムができる頃には、もう少し利便性の高い形にしていかなきゃいけないとは思っております。

【神奈川】 分かりました。南部の方に関してはどうでしょうか。北部だと多少時間がかかると思うんですけども。

【市長】 市内のどこにあるかというのは非常に重要な視点ですけれども、市民ミュージアムも、アクセスという意味では決して駅近ではなかったエリアですので、そういった意味では、交通アクセスという意味では、それほど大きな差が出てくるかなどというのは、どうなんだろうとは思いますが、それよりもやはり、あのエリア全体が文化芸術エリアとして非常に相乗効果が出てくるのではないかなど。ですから、ミュージアムに来るだけではなくて、ほかの文化芸術施設にも訪れられるという、そういうメリットのほうが大きいのではないかと考えていますし、そこに期待していきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。もう一つよろしいでしょうか。

【市長】 はい。

《太陽光発電設備の設置義務化について》

【神奈川】 話は変わるんですけれども、太陽光パネルの設置義務化に関してなんですけれども、今日、常任委員会で可決されました。おおむねその趣旨に関しては賛同している議員が多いようなんですけれども、いろいろ不確定要素があるということで困惑している声もありました。そうした中で可決ということになったので、一歩前進ということなんですけれども、改めてということもないかもしれませんが、今、常任委員会で可決されたということに関して御所感をいただければと思います。

【市長】 まず、議員の皆様から御理解をいただいたことに改めて感謝をしたいと思いますし、これからまだ詰めていかなくちゃいけないところはありますので、皆様からいただいた御意見をしっかり受け止めて、運用に向けて頑張っていきたいと思っています。

【神奈川】 すみません、あともう一つ。また、太陽光パネルなんですけれども、費用負担に関して、例えば今後売電する際に費用がかかる可能性があったりとか災害時のリスクなんですけれども、パネルが外れて誰かをけがさせてしまったりとかという可能性も否定し切れないという説明だったかと思うんですけれども、そうした中で、今想定している状況とは大きく変わる可能性もある中で、状況が変わったときに、市として何か補償というか、対応というか、柔軟に対応していく構えはあるのでしょうか。

【市長】 どういうことを想定しているのかというのがちょっとあれなんですけれども、例えば浸水したとき、太陽光、どうなるんだろうとかというのは議会でも質問がありましたけれども、これまでもそのリスクについて全く否定しておりませんで、これからもしっかりと説明していく必要はあるとは思っていますけれども、今想定していな

いリスクのことについてどう対応するのかというのは、それは個別に考えなくちゃいけない話だとは思っています。

【神奈川】 リスクに関して、災害時のリスクなんですけど、協会の説明が根拠になっているようなんですけれども、協会は把握してないから災害時のリスクは低いんだという市側の説明なんですけれども、ただ協会は全てを把握しているわけではないと。そういう意味では、リスクがないとは言い切れないという今日の市側の説明だったんですけれども、そうすると、リスクがあるかどうかというのはまだ明確なことは言えない状況だと思います。市はリスクは低いと想定しているわけなんですけれども、今後はいろいろな事実を確認した上で出てきた中で、今想定しているものと大きく変わってくる可能性もあるんですけれども、そうしたときに、例えば災害時のリスクに関しては市側は賠償とか一切責任を負わないみたいな説明をされていますけれども、そういった面で柔軟に対応していく可能性はあるんでしょうか。

【市長】 今日の議論もまた聞いてみたいとは思いますが、すいません、私、アップデートされてない部分もあるものですから、またお答えさせていただきたいと思えます。

【神奈川】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 ほかにございますでしょうか。

《統一地方選挙について》

【読売】 読売新聞です。しばらく前に地方選の話題が出て、政令市の話とか、主張が合う方を応援してみたいというようなお話がありましたけれども、現時点でそんな感じで目されているような方はいらっしゃるんでしょうか。

【市長】 まだ現実問題として、今、誰々を応援しますというのを決めているわけではありません。今日も朝、県議会に行ってみたりして、ある会派のところには改めて説明みたいなのはしてまいりましたけれども、理解を求めていく活動はこれからもしていきたいとは思っています。

【読売】 告示とかなされて、主張が明確になったときにまた考える余地ありとか……。

【市長】 そうですね。その前にあるかもしれませんし、ないかもしれないし、期間中でもあるかもしれないし、ないかもしれませんし、臨機に対応していきたいと思っています。いずれにしても、この前申し上げた特別市について応援してくださる議員のところはしっかり応援したいという気持ちは変わっておりません。

【読売】 特別市に限らず、県議選あるいは市議選もでございますけれども、何かの機

会に応援に立つような可能性は今回ありますか。

【市長】 可能性としてはあると思います。ただ、誰にどういうふうにとというのは決まっておられませんし。

【読売】 従来はあまりやられてなかったというような……。

【市長】 そうですね。

【読売】 分かりました。ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 今の質問で補足なんですけれども、相模原市長選の本村さんとは一緒に街頭に立たれたりしていました……。

【市長】 そうですね。前回の選挙はやりました。失礼しました。ありました。

【朝日（幹事社）】 となると、今回は告示日、相模原市に行かれるとかという御予定なんですか。

【市長】 まだスケジュールなどを聞いておりませんが、本村市長のことは応援しておりますので、何かお役に立つことがあればと思っています。

【朝日（幹事社）】 分かりました。

【司会】 ほかにございますでしょうか。

それでは、本日の市長記者会見はこれで終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）2355